

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 16 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25283003

研究課題名(和文) ジャワ語文献に見られるジャワの言語・文化の変容過程

研究課題名(英文) Transformation of Javanese language and culture reflected in Javanese writings

研究代表者

宮崎 恒二 (Miyazaki, Koji)

東京外国語大学・その他部局等・教授

研究者番号：40174156

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、これまでイスラーム化とそれ以前という漠然とした時代区分に沿って考えられてきたジャワの宗教について、より詳細に検討するため、資料として利用されることの少なかったジャワ語文書のコンコーダンス構築し、国際的な研究者ネットワークが活用する研究資源として整備することにより、ジャワ語文書を用いた多様なジャワ研究の基盤を形成した。これにより、ヒンドゥー期ジャワの宗教概念、イスラーム流入後の宗教概念の理解の過程、外来宗教の層が見られる暦と神話の分析、歴史記述の発生と展開に関する研究について、成果を得た。

研究成果の概要(英文)：The current study aims at reexamination of the transformation process of Javanese religions which were so far roughly divided into post-Islamic and pre-Islamic periods. The current study successfully opened up new horizon of viewing transformation process of Javanese religions by utilizing Javanese writings which were often neglected mainly because of its limited accessibility. In order to access Javanese writings more easily, the current project successfully developed concordance Javanese writings. The concordance not only helps researchers to analyze Javanese texts, but also broaden the circle of researchers, attracting young students. On the basis of, and in the course of creating this concordance, the current study could clarify several aspects of Javanese religions, such as interplay of Javanese and Indian religious concepts, relationship between calendar and myth, development of historical way of thinking and so on.

研究分野：文化人類学

キーワード：文化人類学 東洋史 言語学 地域研究 文献学 ジャワ語 インドネシア 国際研究者交流

## 1. 研究開始当初の背景

これまでジャワの宗教に関する議論では、土着の信仰とヒンドゥー教、イスラームといった外来宗教との混淆に力点が置かれてきた。とりわけ、近代以降のジャワの宗教に見られるイスラーム的要素と「前イスラーム」的要素の対比は大きな関心事であった。他方、15世紀ジャワに到来したイスラームとその後の展開について現代のイスラームから類推したり、紀元1世紀から15世紀までの間にジャワにもたらされたヒンドゥー教と仏教を「前イスラーム」とひとくくりにすることが当然のようになされてきた。

しかしながら、外部からもたらされた宗教がどのように受容され、解釈され、そして変容したか、という点については詳細に検討されることがなかった。検討のための重要な資料であるべきジャワ語文書が、これまで等閑視されてきたためである。

ジャワ語は東南アジア島嶼部(インドネシア、マレーシア、フィリピン)において、最大の母語話者数、最も長い文字伝統(約10世紀)を有しており、宗教・文化をはじめ広範な分野に関する豊富な文字史料が残されており、ジャワの文化や宗教の形成ないし変容過程を通時的にたどる資料として極めて重要である。しかし、ジャワ語の文書は、大別してヒンドゥー期、イスラーム流入期(中間期)、マタラム王朝期という異なる時代にまたがり、書かれた言語もサンスクリット語、古ジャワ語、現代ジャワ語(ジャワ文字、アラビア文字)ときわめて多様である。さらにジャワ語自体の難解さが加わり、それらを扱う研究者が限定されがちであった。また、代表的なジャワ語写本や碑文の多くが、ローマ字翻字または翻訳され出版されてきたにも関わらず、資料としての整備が遅れていたこと、そして史的「事実」を示す史料としての信憑性への疑義から、宗教や文化の歴史を探る資料として活用されることは稀であった。

## 2. 研究の目的

ジャワにおける宗教の変容、そして文化全般の変容過程は、人類の歴史上多くの地域で生じてきた外来文化の受容と個別文化の形成という大きな現象の一部を明らかにする一助となるばかりでなく、現代のジャワおよびインドネシアを理解する上で極めて重要である。

本研究では、ジャワに外来宗教の受容とその変容に焦点を合わせ、歴史観、宗教の教義、土着神話などの側面を解明することを目的とする。また、これらの研究の基盤となる研究資源を構築することにより、研究の進展を図る。

これらの異なる時代、異なる言語の文書に関心を寄せてきた国内外の研究者が研究資源を共有するネットワークを形成し、異なる時代、異なるジャンルの文書を比較対照する

ことにより、共同研究の手法によってジャワにおける宗教の変容過程をより正確に把握することが可能になる。また、宗教のみならず、言語・文化的変遷をも明らかにすることができる。さらに、研究資源の公開により、次世代の研究者の参入を促し、ジャワ研究を継続発展させるとともに、宗教の変容過程に関する研究の可能性を広げるものとする。

## 3. 研究の方法

### (1) 役割分担

時代、ジャンル、専門知識に応じて、以下のように役割を分担した。

#### [研究代表者]

宮崎恒二：研究総括、イスラーム流入期ジャワ語資料、神話・説話

#### [研究分担者]

青山亨：ヒンドゥー・仏教期サンスクリット語資料

菅原由美：イスラーム流入期ジャワ語資料、イスラーム復興運動

#### [連携研究者]

深見純生：マタラム期ジャワ語史料、歴史叙述

澤田英夫：インド系文字研究、コンコーダンス

塩原朝子：インドネシア諸語の変容

#### [研究協力者・海外共同研究者]

ウィレム・ファンデルモーレン(オランダ王立言語・地理・民族学研究所・研究員)：ヒンドゥー・仏教期サンスクリット語資料、叙事詩

ロニット・リッチ(オーストラリア国立大学講師)：イスラーム流入期資料、南・東南アジアのイスラーム化

さらに、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所に外国人研究員として定在したオマン・ファトゥラーマン(インドネシア国立イスラーム大学講師)、ストゥワート・ロブソン(前メルボルン大学准教授)、ピーター・ワーズレー(シドニー大学名誉教授)の3名が研究協力者として研究活動に参加した。

また、山崎美保(東京外国語大学大学院博士後期課程)が、刻文担当として加わった。

### (2) 研究手法

#### システム開発

ジャワ語からラテン文字への転記方法について検討し、検討の結果に基づいてサンプル文書を電子化する。他方、コンコーダンス・システムを連携研究者および専門の業者と協議しつつ、表示に必要なタグ付けなどを決定する。これと平行して、研究対象となるジャワ語文書の電子化を進め、試用版のシステムを改良し、ジャワ文書コンコーダンスの公開版を作成する。

#### ジャワ語の文書資料を用いた研究の推進

国内での研究会ならびに下記のシンポジウム等において、研究分担者、連携研究者、研究協力者の分担に基づき、ジャワ語文書を

資料として、歴史、宗教、神話などの諸側面の研究を進める。

国際的な研究者ネットワークの確立

海外の著名なジャワ研究者を招いて国際シンポジウムを開催し、ジャワ研究ネットワークを形成するとともに、コンコーダンスを活用した研究の推進、コンコーダンスへのフィードバックを得る。

コンコーダンスの世界的な利用拡大

デモンストレーションを国際学会において行い、その活用を促すとともに、次世代研究者の参画を促す。

#### 4. 研究成果

##### (1) ジャワ語文書コンコーダンスの構築

まず、古ジャワ語から現代ジャワ語にいたる表記、音声を網羅し、ジャワ語で示唆的特徴とならない音については、区別を廃するなど、統一的な表記方法を確立した。

この方式に基づき、ジャワ語のサンプル文書を電子化し、検索・表示に必要なタグについて、既存の他の言語に関するシステムを参考にしつつ、連携研究者とともに協議した。検索・表示のシステムについては、専門家との協議を行い、数度の改良を重ねた。

これと平行して、すでに様々な方式でラテン文字に転写されているジャワ語文書の中から、時代、テーマにより代表的な文書を選択し電子化を進めた。電子化されたテキストは数十点に及び、このうち Adiparwa, Arjunawihaha, Babad Tanah Jawi, Desawarnana, Mulak(1)がタグ付けされ、公開されている。(Javanese Documents Online, <https://jvdo.aa-ken.jp/>)

##### (2) ジャワの宗教の変容に関する研究

13回に及び研究会を通じて、様々な時代、そして側面に関する研究成果を得た。

まず、9世紀にさかのぼるジャワの刻文から、「神」等に関わる表現を抽出し、サンスクリットとの比較を行うことにより、在地の神格や宗教的職能者に関する知見を得ることができた。

また、ジャワ文学の黎明期を代表するジャワ語のラーマヤナをラテン文字版へ転写し、さらに英訳版を刊行することができた。さらに、ラーマヤナとプランバナン寺院の壁画彫刻、現代の演劇の比較を通じて、「死」に関する理解と表現を明らかにした。

イスラーム導入期については、イスラームの教義に関する文書の分析とその後の宗教塾における活動、そしてジャワ以外の地域における状況などを含めた広範な地域におけるイスラーム導入とイスラーム理解についての知見を得ることができた。

また、イスラーム導入期に端を発する考えられる歴史叙述に挿入された神話が、今日まで伝えられている運勢暦と深い関係をもつこと、複数の暦法がいくつかの神話・伝承と密接に結びついていること、などが明らかにされた。

イスラーム導入後の歴史叙述については、ババッド・タナ・ジャウィを主たる資料として、出来事と歴史観の関係についての考察を行うことができた。

2014年度に開催した国際シンポジウムでは、ジャワ研究を牽引してきた研究者が一堂に会し、それぞれが追求してきた、異なる時代、異なるテーマを越え、典型的にイスラーム的と思われてきた説話が仏教的な要素を基盤としていることなど、新たな知見を得ることができた。

これらの研究成果の主なものは、発表論文等として、下記に記されている。特筆すべきは、代表者の所属するアジア・アフリカ言語文化研究所において、*Javanese Studies* と題する刊行物をシリーズとして発刊したことである。2015年から2016年の一年間で4冊を公刊し、上記国際シンポジウムの成果も、このシリーズの一つとして、近日公刊予定である。

##### (3) 国際的な研究者ネットワークならびに国際的な研究基盤の形成

上記シンポジウムにおいて、ジャワ研究に関する国際的な研究者ネットワークを形成し、コンコーダンスを研究に活用するとともに、構築されたコンコーダンスの拡充やフィードバックにより、コンコーダンスの維持・発展を行う体制を確立した。今後、様々な機会を得て、シンポジウムの継続を見込んでいく。

組織間の連携については、長らくジャワ研究の中心であったオランダ王立言語・地理・民族学研究所との協定に基づき、ジャワ語文書に関する調査研究の協力関係を樹立した。また、インドネシア写本学会には毎年参加し、研究発表を行うとともに、関係のさらなる強化に努めている。

公開されたコンコーダンスを活用した研究を推進するため、上記のインドネシア写本学会において、コンコーダンスの紹介を行い、その利用方法、研究の可能性について発表した。同学会を通じて、ジャワ研究の基盤としてのコンコーダンスの認知と、それを活用した若い世代の研究者の増加が見込まれる。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計17件)

1. 宮崎恒二 2016 「史資料の救出・保存とその活用 インドネシアでの経験から」『アーカイブズ研究』25:26-35. 査読あり)
2. SUGAHARA Yumi 2015 “17 Aceh, 1764 Mirat al-tullab”, (A Jawi sourcebook for the study of Malay paleography and orthography), *Indonesia and the Malay World*. 43 (125): 72-73. (査読あり)

3. SUGAHARA Yumi 2015 “19 Aceh, 1783 Hidayat al-salikin” (A Jawi sourcebook for the study of Malay paleography and orthography) , *Indonesia and the Malay World*. 43 (125): 76-77. (査読あり)
4. SUGAHARA Yumi 2015 “31 Pontianak, 1816 Hikayat Banjar” (A Jawi sourcebook for the study of Malay paleography and orthography) , *Indonesia and the Malay World*. 43 (125): 100-101. (査読あり)
5. VAN DER MOLEN, Willem 2015, “33 Central Java, 1830”, (A Jawi sourcebook for the study of Malay paleography and orthography) *Indonesia and the Malay World*. , 43 (125): 104-105. (査読あり)
6. 深見純生 2015 「ババッド・タナ・ジャウイ(7): 第5部ババッド・マタラム」 『人間文化研究』(桃山学院大学総合研究所) 2:461-549.(査読なし)
7. 山崎美保 2015 「バリトゥン王(在位898-910頃)の統治と王権強化」 『東南アジア 歴史と文化』 44: 83-100.(査読あり)
8. FATURAHMAN, Oman 2015, “New Textual Evidence for Intellectual and Religious Connections between the Ottomans and Aceh”, *From Anatolia to Aceh: Ottomans, Turks, and Southeast Asia. Proceedings for the British Academy* vol.200: 293-309. (査読あり)
9. VAN DER MOLEN, Willem 2015, “Documents on the life of Ko Ho Sing (1825-1900), *Proceedings, the 2<sup>nd</sup> International Conference on Chinese Indonesian Studies*. Pp.224-233. 8 査読あり)
10. 深見純生 2014 「ジャワにおける天変地異と王の神格化」 『桃山学院大学総合研究所紀要』 40-1: 81-101.(査読なし)

[学会発表](計 32 件)

1. SUGAHARA, Yumi & AOYAMA, Toru, “Introducing Javanese documents online (JVDO)”, *Symposium Internasional ke-16 Pernaskahan Nusantara (the 16<sup>th</sup> International Symposium of Manassa)*, 2016.9.28, Perpustakaan Nasional RI, Jakarta, Indonesia.
2. SHIOHARA, Asako, JUKES, Anthony, “The South Sulawesi Scripts: Past, Present and Future”, *Kongres Internasional Masyarakat Linguistik Indonesi 2016*, 2016年08月24日~27日, Universitas Udayana, Bali, Indonesia.
3. 宮崎恒二 「史資料の救出・保存とその

活用 インドネシアでの経験から」アーカイブズ学会 2016 年度大会, 2016 年 04 月 23 日, 東京: 東京外国語大学.

4. 菅原由美, 「東南アジア島嶼部におけるイスラーム化の進展と伝統の創出 ミラージュ物語を題材に」イスラム協会講演会『東南アジアのイスラーム 知の伝統とネットワーク』(2016 年 1 月 30 日、東京大学)(招待講演)
5. 深見純生 「東南アジア史用語リスト案について」東南アジア学会第 93 回研究大会, 2015 年 06 月 01 日, 松山: 愛媛大学.
6. 西野範子, 青山亨, 木村淳, 野上建紀 「ベトナム、南シナ海沖・チャウタン海揚がりの資料の初歩的報告」(パネル「9-10 世紀の東アジア~イスラーム世界間の東西海上交易 - 文献史学と考古学の視点から」報告 4), 東南アジア学会第 93 回研究大会, 2015 年 05 月 31 日, 松山, 愛媛大学.
7. 菅原由美, 「ジャワの 19 世紀をどう記述するか—写本に見るインドネシアのイスラーム潮流」東南アジア史学会賞受賞記念講演(2015 年 5 月 30 日、愛媛大学)(招待講演)
8. NISHINO, Noriko, AOYAMA, Toru, KIMURA Jun, NOGAMI, Takenori, LIEN, Le Thi, “Nishimura Project: Tang Dynasty Chau Tang Shipwreck and ‘Maritime Ceramic Route’”, *The Third Congress of the Asian Association of World Historians*, 2015 年 05 月 29 日, Nanyang Technological University, Singapore.
9. AOYAMA, Toru, “The significance of ‘moksa’ in Ramayana reliefs in the light of Old Javanese texts”, *International Symposium Transformation of Religions as reflected in Javanese Texts*, 2015 年 02 月 11 日, 東京、アジア・アフリカ言語文化研究所.
10. MIYAZAKI, Koji, “Javanese Calendar and Myth: Story of Watu Gunung”, *International Symposium Transformation of Religions as reflected in Javanese Texts*, 2015 年 02 月 11 日, 東京、アジア・アフリカ言語文化研究所.
11. YAMASAKI, Miho, “Transformation of Religions as reflected in Old Javanese Inscriptions from 9<sup>th</sup> and 10<sup>th</sup> Centuries: Analysis of the imprecations”, *International Symposium Transformation of Religions as reflected in Javanese Texts*, 2015 年 02 月 12 日, 東京、アジア・アフリカ言語文化研究所.
12. FATURAHMAN, Oman, “A further discussion on the Javanese Islamic

- manuscripts in the British Library Collection”, International Symposium *Transformation of Religions as reflected in Javanese Texts*, 2015 年 02 月 11 日, 東京、アジア・アフリカ言語文化研究所 .
13. VAN DER MOLEN, Willem, “The meaning of Islam in the history of the Chinese in Java according to the *Sajarah Cina*”, International Symposium *Transformation of Religions as reflected in Javanese Texts*, 2015 年 02 月 12 日, 東京、アジア・アフリカ言語文化研究所 .
  14. AOYAMA, Toru et.al, “Nishimura Project: the Oldest Shipwreck in Vietnam: Testimony to the Maritime Ceramic Route”, *International Symposium on Underwater Archaeology in Vietnam and Southeast Asia*. 2014 年 10 月 14 日, クアンガイ市、ベトナム .
  15. VAN DER MOLEN, Willem, “Poerbatjaraka dan katalogisasi naskah”, Simposium Internasional Masyarakat Pernaskahan Nusantara XV *Naskah dan Relevansinya dalam Kehidupan Masa Kini*, 2014 年 09 月 19 日, Grand Inna Muara Hotel, Padang, Indonesia.
  16. AOYAMA, Toru, “Relevansi film ‘Opera Jawa’ sebagai karya film cerita Ramayana dan potensi pemanfaatan naskah-naskah untuk pengembangan ekonomi kreatif”, *Simposium Internasional Masyarakat Pernaskahan dalam Kehidupan Masa Kini*, 2014 年 09 月 19 日, Grand Inna Muara Hotel, Padang, Indonesia.
  17. FATURAHMAN, Oman, “Calau, Minangkabau, dan jaringan Islam Nusantara”, Simposium Internasional Masyarakat Pernaskahan Nusantara XV *‘Naskah dan Relevansinya dalam Kehidupan Masa Kini*, 2014 年 09 月 19 日, Grand Inna Muara Hotel, Padang, Indonesia.
  18. SUGAHARA Yumi, “Sejarah daerah Minangkabau dan naskah: dari penelitian naskah 2003-2013” *Simposium Internasional Masyarakat Pernaskahan Nusantara ke15 -Naskah dan Relevansinya dalam Kehidupan Masa Kini-*, (インドネシア写本学会共催) (17-19 September 2014, Hotel Grand Inna Muara, Padang, INDONESIA).
  19. VAN DER MOLEN, Willem, “Susastra Jawa Kuna: Analisis retorika dalam kekawin Ramayana”, International Seminar *Pembangunan karakter bangsa melalui sastra, budaya dan agama*, 2014 年 06 月 29 日~07 月 01 日, Sekolah Tinggi Agama Hindu Negeri Gde Pudja, Mataram, Indonesia.
  20. SUGAHARA Yumi, “The Night Journey translated by Ahmad Rifa’i Kalisalak” *Joint Workshop “Comparative Study of Isra Mi ‘raj in Southeast Asia” (3rd Workshop on the Comparative Study of Southeast Asian Kitabs)*, Collaboration with ILCAA Joint Research Project “Transformation of Religions as Reflected in Javanese Texts” (18 May 2013, Yotsuya Campus, Sophia University)
- 〔図書〕(計 13 件)
1. 青山亨 他 2017 『上座部仏教事典』(パーリ学仏教文化学会・上部仏教辞典編集委員会編, 担当部分: 「インド化」 pp.168-169.) 東京: めこん . 686p. (査読なし)
  2. 青山亨 他 2016 『名著で読む世界史 120』(池田嘉郎、上野慎也、村上衛、森本一夫編、担当部分: 繁栄するジャワの王国の記録: デーシャワルナナ) pp.228-230), 東京: 山川出版社 . 368p. (査読なし)
  3. FATURAHMAN, Oman 2016 *Shattāriyah silsilah in Aceh, Java, and the Lanao area of Mindanao*. (Javanese Studies 4), Tokyo: ILCAA, Tokyo University of Foreign Studies. (XII+140p.) (査読あり)
  4. SUGAHARA, Yumi ed. 2016. *Comparative Study of Southeast Asian Kitabs (4): Local and Global Dynamism in Transformation of Islamic Tales*. SIAS Working Paper Series 27. (“Transformation of the Isra’ Mi raj Story in Modern Southeast Asia”, pp.1-10.) Tokyo: Institute of Asian Cultures, Center for Islamic Studies, Sophia University. vi + 110 p. (査読なし)
  5. ROBSON, Stuart 2015 *The Kakawin Ghaṭotkacāśraya by Mpu Panuluh*. (Javanese Studies 3), Tokyo: ILCAA, Tokyo University of Foreign Studies. (X+332p.) (査読あり)
  6. ROBSON, Stuart 2015 *Old Javanese Ramayana: a new English translation with an introduction and notes*. (Javanese Studies 2), Tokyo: ILCAA, Tokyo University of Foreign Studies. (VIII+812p.) (査読あり)
  7. VAN DER MOLEN, Willem 2015 *Ramayana: the story of Rama and Sita in Old Javanese*. Romanized Edition, (Javanese Studies 1), Tokyo: ILCAA,

- Tokyo University of Foreign Studies.  
(XXXVI+656p.) (査読あり)
8. FATURAHMAN, Oman 2015 *Filologi Indonesia: Teori dan Metode*. Prenadamedia Group, (179p.) (査読なし)
  9. 菅原由美(他) 2015 『多文化交流のなかのイスラーム：東南アジアの写本美術、物語、装いから』川島緑(編)2013年10月19日NIHU「イスラーム地域研究」主催国際シンポジウム講演記録, SIAS Working Paper Series 24』, Working Paper Series 24, (担当部分「東南アジアに渡った『夜の旅と昇天イスラ・ミラージュ』物語, pp.23-35」(査読なし))
  10. SUGAHARA Yumi (ed.) 2015 *Comparative Study of Southeast Asian Kitabs (3): Papers on the story of Isra Mi'raj presented at the Sophia University Workshop on May18, 2013. SIAS Working Paper Series 23*. ("Nazam Arja': Muhammad's Night Journey translated by Ahmad Rifa'i of Kalisalak", pp.33-41.) Tokyo: Institute of Asian Cultures - Center for Islamic Studies, Sophia University, iv + 126p. (査読なし)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等  
(Javanese Documents Online, <https://jvdo.aa-ken.jp/>)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

宮崎恒二 (MIYAZAKI, Koji)  
東京外国語大学・特命事項担当室・教授  
研究者番号：40174156

(2) 研究分担者

青山 亨 (AOYAMA, Toru)  
東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授 研究者番号：90274810

菅原由美 (SUGAHARA, Yumi)  
大阪大学大学院・言語文化研究科・准教授  
研究者番号：80376821

(3) 連携研究者

深見純生 (FUKAMI, Sumio)  
桃山学院大学・国際教養学部・元教授  
研究者番号：40144555

澤田英夫 (SAWADA, Hideo)  
東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授 研究者番号：60282779

塩原朝子 (SHIOHARA, Asako)  
東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授 研究者番号：30313274

(4) 研究協力者

ファン・デル・モーレン, ウィレム  
(Willem van der Molen, オランダ国立言語・地理・民族学研究所・研究員)

オマン・ファトゥラーマン  
(Oman Faturahman, インドネシア国立イスラーム大学講師)

ストゥワート・ロブソン  
(Stuart Robson 前メルボルン大学准教授)

ピーター・ワーズレー  
(Peter Worsley, シドニー大学名誉教授)

山崎美保  
(東京外国語大学大学院博士後期課程)

海外共同研究者

リッチ, ロニット  
(Ronit Ricci オーストラリア国立大学・講師)